

## 山田大使によるフロア発言

「平和の文化推進:教育の役割」セミナー(於:連邦下院・平和の文化特別委員会)

2017年10月24日(火曜)14:30~

本日のセミナー開催にあたり、ケイコ・オオタ連邦議会下院・平和の文化特別委員会委員長及びご列席の下院議員の皆様のイニチアチブに敬意を表します。

本日、「平和の文化:教育の役割」に関するセミナーでの議論は非常に有意義でありました。2015年、国連による「持続可能な開発目標(SDGs)」の中で、教育の目標として「平和の文化」というキーワードが示されました。日本は、このSDGsに向けて策定した「平和と成長のための学びの戦略」の中で明らかにしているように、「教育は、他者や異文化に対する理解と信頼を育み、平和を支える礎ともなる」と考えています。日本は、平和国家として、政府開発援助(ODA)を通じ、教育協力をはじめとする国際貢献に取り組んできました。今後も、人間の安全保障の観点から教育分野を重視し、「すべての人に質の高い教育」の提供を通じ、持続可能な開発を推進していきます。

本日、ブラジル被爆者平和協会の方々から、ご体験に基づく大変貴重なお話を伺いました。広島・長崎の惨禍を国境と世代を越えて広げていくことは、被爆国である日本の使命・責務です。被爆者の方々は、核兵器のない世界の実現に向け、被爆の実相を世界に伝えてきました。ブラジル被爆者平和協会の長年の努力に対して、心から敬意を表します。

核兵器の問題については、今日、北朝鮮が核実験及び累次の弾道ミサイル発射を行い、かつてない重大かつ差し迫った脅威になっています。北朝鮮の挑発をとめるために、国際社会は連帯し、結束を固めなければなりません。また、日本は唯一の戦争被爆国として核兵器の廃絶を訴えてきました。日本は、核兵器国と非核兵器国の双方の協力を得つつ、「核兵器のない世界」の実現のために全力で取り組んでいきます。

こうした取り組みの中で、私は日本とブラジルとの協力を一層推進していく所存です。ご列席の皆様のご助力が得られれば幸いです。

どうも有り難うございました。